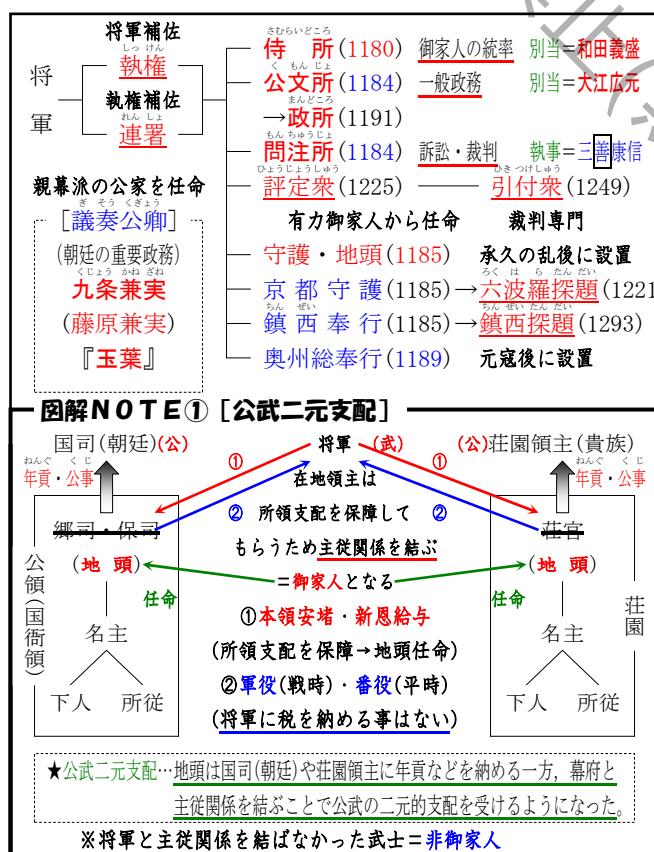


| 源 氏 の 動 向        |  | 平 氏 の 動 向  |
|------------------|--|--|
| 安<br>徳<br>天<br>皇 | 1180年 以仁王 (後白河法皇皇子) の 令旨 (天皇以外の皇族からの命令)<br>→ 源頼政の挙兵 (宇治の平等院付近で敗死)  | 宣旨=天皇の命令<br>院宣=上皇・法皇の命令<br>令旨=皇子・親王の命令   |
|                  | 1180年 源頼朝の挙兵 (北条時政の援助により伊豆で挙兵)<br>石橋山の戦い (敗北) → 富士川の戦い (平維盛を破る)<br>侍所 (御家人統率機関) 設置 (1180)<br>★和田義盛 [侍所別当] (御家人)<br>京都には上らず、まずは関東で政治体制を整えよう                 | 【源義仲 (木曾で挙兵)】<br>1180年 源義仲が挙兵 (木曾)<br>1183年 倶利伽羅峰の戦い (平維盛を破る)<br>1183年 義仲入京 (義仲乱行)<br>翌年 征夷大將軍 となる<br>→ 旭將軍と呼ばれる |
|                  | 1183年 寿永二年十月宣言   | 1181年 平清盛死去<br>1181年~ 養和の飢饉 (西国中心)   |
|                  | 1184年 源範頼・源義經 (頼朝の弟) を派遣<br>宇治川の戦い (山城国で義仲敗死) → 一ノ谷の戦い (摂津国) → 屋島の戦い (讃岐国)   | 1183年 平家都落ち<br>安徳天皇も都落ち  |
|                  | 1185年 壇ノ浦の戦い (長門国) (平家滅亡) → 鎮西奉行 設置 (1185)<br>のち、後白河法皇が頼朝追討を義経に命じるが失敗→逆に義経追討の院宣を発す<br>守護・地頭 設置 (1185) ★京都に置かれた守護=京都守護<br>大江広元の建議で源義経・行家追討の名目で設置→北条時政を朝廷に派遣 |  |
|                  | 1189年 奥州平定 (藤原泰衡を滅ぼす) → 奥州総奉行 設置 (1189)  |  |
|                  | 1190年 頼朝が初の上洛 → 頼朝が右近衛大将 (右大将) に就任   |  |
|                  | 1192年 後白河法皇没後 → 頼朝が征夷大將軍に就任  |  |
|                  | 1195年 東大寺大仏再建供養 (重源による勧進) 廣和創 (宋の工人) の協力)  |  |
|                  | 寺院建立などの寄付を募ること   | 大輪田泊 (摂津国) の近く<br>福原京 (摂津国) 遷都<br>半年後に平安京に戻す<br>→ 平重衡の南都焼き討ち<br>興福寺・東大寺  |



主従関係を結ぶことで公武の二元的支配を受けるようになった

※將軍と主従関係を結ばなかった武士=非御家人

〔経済基盤 (幕府は経済的には貴族的な側面を持っていた) 〕

- ① **関東御領** (平家没官領など將軍が所有する荘園) 500 力所
- ② **関東御分国** (関東知行国) (將軍の知行国) 最大で 9 力国
- ③ **関東御公事** (幕府が御家人に課す臨時の公共事業費)

**守護** (各國の有力御家人を任命) ★初期は物追捕使・國地頭と呼ばれた

任務 = **大犯三力条** (大番催促・謀叛人の逮捕・殺害人の逮捕)

国内の御家人に京都大番役に行くよう命令

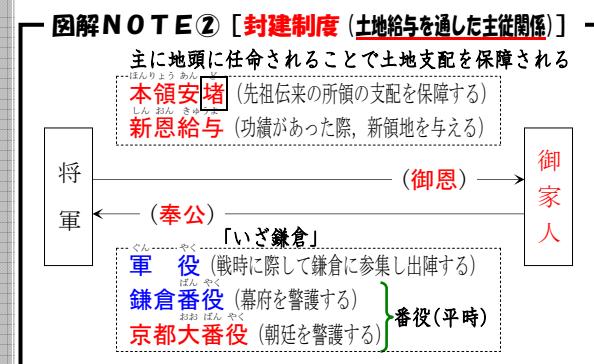
給与 = 段(反)別 5 升の兵糧米 (1185) → 翌年廃止

→ 1 段(360 歩)の土地につき(荘園・公領を問わず)

**地頭** (幕府と主従関係を結んだ御家人) ★初期は荘地頭と呼ばれた

任務 = **荘園や公領(国衙領)を管理**

→ 年貢徵収・納入と治安維持



| 執 権   | 政 治   | ・ | 争 乱  | 図解NOTE [將軍家系図]  |
|---|---|---|--|-----------------|
| ①<br>頼朝   |   |   | 1199年 源頼朝 (右大将家 or 鎌倉殿 or 二品) 死去「二品=頼朝 or 政子」  |                 |
| ②<br>頼家   |   |   | ★有力御家人 13人 の合議制 (北条政子の実家である北条氏を中心に頼家の專制を抑える)<br>1200年 梶原景時の乱 (謀反を企て上洛をはかるが敗死)<br>1203年 比企能員の乱 (頼家と結び北条氏打倒を計画するが失敗)<br>→源頼家を修善寺 (伊豆) に幽閉 (一幡は殺害される)<br>→北条時政に殺害される                  | 頼家派のため<br>排斥される |
| ③<br>実朝   | 北条時政<br>[政所別当]<br>↓<br>北条義時<br>[政所別当]<br>[侍所別当] |   | 1205年 昌山重忠の乱 (対立を深めた北条氏の挑発にあい討たれる)<br>★のち北条時政は源実朝を廢して、娘婿の平賀朝雅の將軍擁立を計画 (牧氏の変)<br>but 政子・義時の反対で失敗し、時政は伊豆に引退  |                 |
| ④<br>藤原 (九条)<br>頼経<br>・<br>頼嗣<br>〔<br>攝家將軍<br>藤原將軍<br>〕 |   |   | 1213年 和田義盛 [侍所別当] が北条義時に滅ぼされる (和田合戦)<br>★北条義時が政所・侍所別当を兼任 (以後、この両方を兼任した役職を執権という)<br>1219年 公暁が源実朝 (右大臣) を鶴岡八幡宮で殺害 ★『金塊和歌集』 (源実朝の和歌集)<br>★幕府は皇族將軍 (官將軍) の擁立を計画するが朝廷は拒否 + 陳和卿の協力で入宋を計画 |                 |
|   |   |   | 1221年 北条義時追討の院宣 (後鳥羽上皇が鎌倉幕府打倒のために西面の武士を設置して挙兵)<br>★天台座主の慈円 (九条兼実の弟) は乱直前に『愚管抄』を後鳥羽上皇に提出し倒幕挙兵を諫める   |                 |
|   |   |   | 1221年 承久の乱 (北条義時は北条泰時 (義時の子)・北条時房 (義時の弟) を派遣し応戦)<br>★北条政子 (二品) による「右大将 (源頼朝) の御恩に報いよ」との演説で御家人結束 in 『吾妻鏡』 (鎌倉幕府編纂の歴史書)  |                 |
|   |   |   | 【承久の乱の結果 (鎌倉幕府の勝利→公武二元支配における幕府の朝廷に対する優位性が確立)】  |                 |
|   |   |   | ①上皇の処分・皇位継承<br>後鳥羽上皇 (隠岐に配流)・土御門上皇 (土佐に配流)・順徳上皇 (佐渡に配流) ★順徳天皇『禁秘抄』 (有職故実書)<br>朝廷の儀式や年中行事を研究する学問<br>仲恭天皇廢位→後堀河天皇即位  | 朝廷 (公) < 幕府 (武) |
|   |   |   | ②上皇側の所領 3000 カ所没収→これらの新しい土地を把握するため、土地台帳を作成<br>→ 大田文 (田数帳) (幕府が守護に命じて一国ごとの荘園・公領の土地面積・領有関係を記録させた土地台帳) 作成   |                 |
|   |   |   | ③新補地頭 (承久の乱後、新たに補任された地頭) を任命 (1221) ④承久の乱以前からの地頭は本補地頭という<br>→ 新補率法 (1223) (新補地頭の給与規定一段 (反) 別 5升 の加徴米の徴収権・田畠 11町につき 1町 の免田・山川からの収益の半分)  |                 |
|   |   |   | ④六波羅探題 (従来の京都守護にかわる→朝廷の監視・京都の警備・尾張 (のち三河) 以西の御家人の統轄)<br>初代に北条泰時 (北方)・北条時房 (南方) を任命   |                 |
|   |   |   | (1224年)  |                 |

